



舞鶴市立新舞鶴小学校だより

令和 8 (2026) 年 1 月 30 日 発行

白糸中学校区「目指す子ども像」

自ら学ぶ子・人とつながる子

心も体も鍛える子・ふるさとを愛する子

学校HP



人のために 仲間のために

私は小中学校で野球に取り組み、社会人になってからも草野球に興じていました。実際に取り組んだのは野球ですが、いろいろなスポーツを観戦（主にテレビで）するのは大好きで、特にサッカーは日本代表戦ともなるとテレビの前にかぶりついて応援しています。冬休みも高校サッカーをまるで我が子が出場しているかのように感情移入しながら応援していました。

実際には競技をしたことのないサッカーですが、こんなデータを目にしたことがあります。サッカーという競技は、観戦していても分かるように常に走り回っていて、その試合中の選手の走る距離は他のどんな球技より長いと言えます。プロのサッカー選手は、前後半 90 分の試合で、走る距離は平均して約 10~11 km になるそうです。プロ野球選手は、ベンチへの行き来する部分を除けば、0.5~1 km と言われているので、サッカー選手がいかに長い距離を走っているのかが分かります。しかし、サッカー選手がそんな長い距離を走っているにもかかわらず、実際にボールに触れている時間はと言えば、ほんの 2~3 分ぐらいだそうです。つまり、試合中はほぼボールに触ることなく、走っていることになるのです。なぜ、走るのか？それは、チームの仲間のため、チームの勝利のために走るのです。自分が走ることで、味方に付いている敵の選手を減らすことができる。自分が走ることで、敵の選手が誰にパスを出すのかが分かりにくくなる。自分が走ることで、敵の選手を引き付けることができ、シュートが打ちやすくなる。相手の陣地に居ても、味方のピンチの時にはコートの手前から端までを全速力で走って、自陣の守りを固めるなどなど、自分は実際にはボールに絡むプレーはしないと分かっているにもかかわらず、味方の選手のため、チームのために走るのです。これはサッカーに限ったことではありませんが、サッカーはなにせコートが広い分、走る距離が長くなります。

さて、このサッカーの話を学校や学級に当てはめると、学校教育の中でも大切にしたい、ぜひ身に付けさせたい姿です。自分がしんどい思いをしても、人のため、仲間のために働くことができることは素晴らしい力です。先日も 5 年生で、来年度の新本部役員の候補者を決める決意表明演説会がありました。6 人の枠に 11 人の立候補者が並び、一人一人が児童会本部役員として、学校のため、全校のためにこんなことを頑張りたいという決意を真剣な面持ちで発表しました。そのどれもが自分が本部役員という大役で厳しいこともたくさんあることも分かりながら、人のために力を尽くそうとする強い意志を感じるものばかりでした。その姿を見ている者はみなきっと感動したと思います。実際に発表を聞く側も誰一人発表者から目を逸らすことなく、発表者を見つめていました。5 年生全員が集まるその場の空気は、厳かそのものでした。こうやって、新舞鶴小学校の最高学年としてのよき伝統が引き継がれていくことを実感する時間でした。

あと 1 カ月半もすると、今の学年が終わります。特にクラス替えがある学年については、今の仲間たちと学習したり、運動したり、遊んだりする時間は残りわずかです。クラス替えのない学年も含めて、ぜひ、この仲間たちとまだまだ“一緒に居たい”と思えるような時間を作り出してほしいと願います。そのために、自分のことも大切ですが、人のため、仲間のため、学級のためにしんどいことでも力を尽くせる児童を最後の最後まで育てていきたいと思っています。そして、その価値を実感として捉え、自分の心の中に位置付けることができるような支援も学校として取り組んでまいります。



2 月に入ります。寒さもまだまだ厳しさを増しています。感染症の流行にもさらに注意していかなければなりません。今月もどうかお子様の健康管理に留意いただき、元気に学校生活が送れますよう、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

校長 亀井 敬介 教職員一同

保護者アンケートお世話になりました。

保護者アンケートでお寄せいただいたご質問やご要望について、学校としての回答集を別紙で配布しております。紙面での回答であり、十分に伝わり切らなかったり、明確にお答えできていなかったりする内容もありますが、学校としての考えをご確認いただければと思います。また、全体集約もこの紙面においてお知らせしておりますので、そちらも併せてご確認をよろしくお願いいたします。